



田中立一 議員

質問 北陸新幹線・えちごトキめき鉄道 及び路線バスについて

北陸新幹線沿線の騒音・振動について、試験走行から1年、開業から9か月が経過しようとしており、既に解消されなければならない課題と思うが、これまでの経緯と現状、鉄道・運輸機構の対応と今後の市の対策について伺う。

北陸新幹線糸魚川駅開業2年目に向けての利用促進策、また、えちごトキめき鉄道について、発表された上半期の経営状況と現在の課題について伺う。

また、バスの利用促進について、過疎化・高齢化地域の路線維持対策として期待される、路線バスで宅配便を輸送する「客貨混載バス」の導入はいかがか。

▼市長答弁

本年5月から2次測定を実施しており、調査が終了した地区から順次、騒音・振動の結果が通知されている。今後、鉄道・運輸機構では音源対策と住宅の防音工事を実施し、市としては、住民と機構との調整を進め、早期解決に向

けて取り組んでいく。

北陸新幹線については、北アルプス日本海広域観光連携会議でワーキングチームを設立し、JR西日本と協力しながら、利用促進に努めていく。また、えちごトキめき鉄道について、旅客収入実績では計画額を上回っているが、減価償却費が大きいことから営業利益が赤字となっている。

客貨混載バスは、一部の路線で実施している。

質問 農業政策について

TPPの「大筋合意」について、地域農業への影響を市はどのように捉えているか。また、糸魚川市の農業の現状について、今年の米の作柄と台風15号による影響と対応、広域協定組織の現況と今後の取り組みについて伺う。

▼市長答弁

当市では、中山間地域が多く、規模拡大や経営の効率化は容易でないことから、今後、政府が打ち出すTPP対策を注視する必要があると考えている。

上越地域の作況指数はやや良で、コシヒカリの1等米比率は、10月末現在で72.5%と、県全体より低い結果となった。原因としては、台風15号が大きく影響したのと考えており、今後、関係機関と対策を協議していく。

広域協定については、多面的機能支払2協定、中山間地域等直接支払15協定、環境保全型農業直接支払1団体であり、今後、これらの各協定を1つにまとめることにより、中山間地域の農業の推進役を担うことを期待している。



五十嵐健一郎 議員

質問 教育環境と福祉の充実について 伺います。

- (1)「早寝早起きおいしい朝ごはんフォーラム」開催を通した10年間の課題分析及び今後の取り組むべき行動について
- (2)市民総ぐるみのひとみかがやく0歳から18歳までのひとづくりの今年度までの点検・評価、検証結果を踏まえた施策の改善・見直しについて
- (3)認知症の理解と支える体制づくり及び糸魚川版CCRC※構想の調査検討について

▼教育長答弁

(1)この10年間で早寝早起きおいしい朝ごはんへの意識は向上し、特に9歳までの生活リズムは改善傾向にあるが、10歳以上はメディアに取り囲まれた生活になりやす

い家庭が多く、課題と捉えている。今後は、保護者を含め9歳までの生活リズムの定着を重点的にを行い、土台をつくったうえで、豊かな体験をしてこそ子どもは育つという意識を市民ぐるみでつくり上げる取り組みが必要だと考えている。

- (2)これまでの成果は4点あり、幼稚園・保育園、小学校、中学校の連携が着実に進んでいること、早寝早起きおいしい朝ごはん運動が定着してきていること、学校生活を楽しく送っている子どもが多いこと、地域の行事に参加する子どもの割合が高いことである。課題は3点あり、学力の向上、社会性や道徳性の育成、家庭・地域とのさらなる連携である。このことを踏まえ、家庭では、生活リズムの定着、愛着形成の育成のための支援、自発的な学習の定着、また、学校、家庭、地域が連携して取り組みを進めていくことが重要であり、「子ども一貫教育基本計画」の見直しを進めている。

▼市長答弁

- (3)認知症サポーター養成講座を実施して支援体制の強化を図るとともに、認知症カフェを通じて認知症に対する正しい知識の普及啓発を行っている。また、CCRCについては、総合戦略の中で調査を進めていく。

※ CCRC… 高齢者が健康なうちに地方へ移り住み、生涯学習や社会貢献に取り組みながら暮らす生活共同体。Continuing Care Retirement Community(継続的なケアを提供する高齢者向けコミュニティ)の略。